

分科会 3

私達がピアスタッフの仕事に魅せられる理由 ～葛藤と共に価値と可能性を模索する～

日本ピアスタッフ協会： 川村有紀（障害者相談支援事業所てれんこ）
眞嶋栄（地域活動支援センターもくせい舎・ゆい）
古関俊彦（NPO 法人 颯埜扉）
相川章子（聖学院大学）
竹内政治（さいたま市精神障害者当事者会ウィーズ）

日々、困難や葛藤に直面しながら、仕事を続けるピアスタッフ。

「ピアスタッフは何に突き動かされて仕事をしているのか、また何を大切にしているのか、互いの語りに耳を傾け、分かち合ってみよう。現在の立場や経験は問いません。どなたでもお越しください」と企画して、迎えた本番。会場は100人前後の参加者だっただろうか。

まず、コーディネーターの相川・竹内が挨拶し分科会をはじめた。

慣例として、話題提供者の古関・眞嶋・川村は現役のピアスタッフ。それぞれが、日々の業務や利用者さんとの関わりの中で得られた気づきや喜びを語る。少し竹内のピアスタッフの挫折体験なども交えて会は進んでいった。前半の締めくくりは相川が行う。

休憩を挟み後半はグループワークを行う。15人くらいのグループでピアのことを共有する。

模造紙を使い解りやすく解説してくれたグループがあった。専門職が程よく混じり、雇用とピアスタッフの関係にも触れたグループがあった。

そして長時間の分科会はあきられることもなく、皆満足した感じで閉会した。

今年からこの分科会枠はピアスタッフ協会で引き受けている。この分科会の企画は協会のいろいろな意見や葛藤を超えて実現したものだ。

今日に自由記入で書いてもらった感想文は膨大な量だった。後日、川村がPDFにして協会のメーリングリストに流したのを読むと、おおむね好評でピアスタッフの将来が垣間見えた気がする。

《竹内政治（さいたま市精神障害者当事者会ウィーズ）》